

西川芳彦

ブイエスシー社長

VSC
にしかわ・よしひこ/四七歳、滋賀県出身、一九九五年から動物病院のコンサルティングを開始、三〇〇年以上の成功実績を持つ。「動物病院で獣医師として生きる」(アイシーメディアックス刊)など著書多数

動物病院の多店舗展開で 獣医業界の風雲児

事務所の電話が鳴った。西川芳彦が受話器を取ると、系列の動物病院の女性院長から切羽詰まった声が聞こえてきた。「もう来月から医薬品が入手できません。どうしましょう」「またか……」西川はただ呆れ返るしかなかった。事の顛末は、地元の獣医師らが

結託し、医薬品卸の営業マンに対し、西川が経営する病院に「薬を売るな」と圧力をかけたのだ。西川は腰が低く、決して敵をつくるタイプには見えない。では、なぜ理不尽なやがらせを受けるのか。それは、西川の経営手法が獣医業界の既存秩序への挑戦にほかならないからだ。



内装もきれいで清潔で、接客態度、従業員教育も徹底していた。夜間救急や外科、眼科、皮膚科、精神科などの専門医もいる。なによりも驚いたのは、民間企業が経営する大病院が複数あり、三十代前半の若い院長、しかも女性院長が多かったことだ。翻って、日本の動物病院は当時、お世辞にも内装や衛生面に気をつかっていたとはいえなかった。また、日本は個人経営の獣医が主流。せっかく獣医学部を卒業しても、将来自ら開業しなければ、獣

医師として働く場がない。実際に、いまなお動物病院に勤務する臨床経験一〇年未満の若い獣医師の大半は、「研修」やアルバイトの扱いであり、年収は二〇〇万〜五〇〇万円台。休日勤務や深夜勤務も多く、労働は過酷だ。獣医師を続けたくても働けず、泣く泣く臨床現場を去る若い人たちがいる。西川は「自分が動物病院を経営し、若い獣医師に勤務医としての活躍の場を設けたい」と考えた。当然、獣医業界からの反発は予

わが社はこれで勝負!

強みは、やはり人材。獣医師の採用には、最も気を配ろう。女性の飼い主と小型犬の「患者」が多い首都圏の病院には若手の女性院長も多い。徹底したインフォームド・コンセント(治療の説明と同意)に力を入れる



VSCとは、「ペテリナリー・クリニク・オブ・シヨッピングセンター」の略。米国で増えているシヨッピングセンター内の動物病院にヒントを得たものである。西川は全国各地のシヨッピングセンターにテナントとして場所を確保。そのスペースを個人経営の動物病院にサブリースすることで、傘下の病院数を増やしてきた。今年一〇月一七日現在でその数は一九。このほか、二〇〇二年以降に積極的に増やした二〇の直営病院がある。直営病院の場合、経営実務はVSCが担当、院長と獣医師はVSCの社員として、「治療と診断」の医療行為に専念する。〇四年七月からは「ATHENA(アテナ)動物病院」という看板を一部直営店(現在七施設)に掲げ、ブランド戦略も導入した。「個人経営主体の動物病院に近代的経営手法を取り入れた」のだ。だが、これは「タブー」への挑戦である。

職場のない若手獣医師 儲け主義II医療の質低下 の的はずれな批判

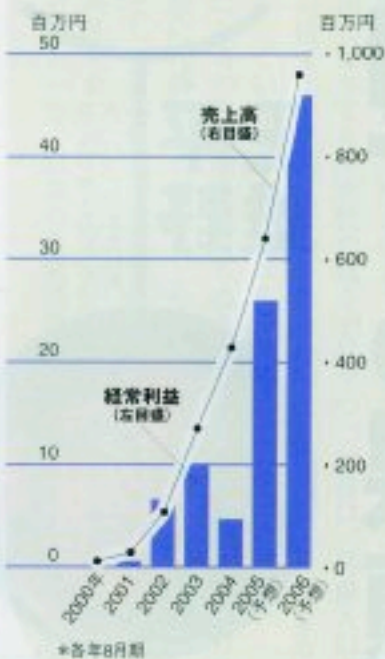
そもそも獣医師の世界は、資本の論理を疎んずる傾向が強い。利益追求志向が過当競争をあいおり、ひいては医療の質をゆがめるといのが反対論者の主張だ。

想されたが、一方でこの考えに賛同してくれる獣医師も少なからずいたことが西川の背中を押した。二〇〇〇年、VSCを設立した。資本金は五八五〇万円。資金繰りには苦労した。なけなしの預金をはたいて、足りないぶんはノンバンクから工面した。

優れた立地・物件と 獣医師の実力が 成功の条件

どんなに小規模な動物病院でも、開業には三〇〇〇万円はかかるといわれる。しかも、VSCは、社員の完全週休二日制と医療の質を確保するため、一つの病院に最低二人の獣医師と看護師を置く。二十代の院長でも基本給は四〇万円を支給する。当然、人件費がかさむ。黒字化は容易ではない。ところが、VSCによる直営病院のほぼ大半が二年目で黒字化している。顧客を引き付ける秘密は

直営病院の 多店舗化で 業績は伸長



徹底した立地調査のほか、治療という「技術力」以外にも、治療方針や料金などをといていねいに説明できる獣医師の採用にある。「立地・物件と獣医師の実力。この二つで決まる」というのが持論だ。病院の企業経営に対する批判やいやがらせについては、結局、「先行者として範を示し、利用者の支持を得るしかない」と考える。今後は、直営病院を年間最低一〇施設ペースで開設し、VSCを三年以内で新興市場に上場させたい考えだ。

〇五年八月期は、売上高が前期比五〇%増の六億四〇〇〇万円、経常利益が五・五倍の二五〇〇万円と予想。中期経営計画の最終年度である〇九年八月期は経常利益一億八八〇〇億円を目標とする。その成長モデルはシンプルだ。「優れた獣医師を集めることに尽きる」と西川は言い切った。(敬称略) 本誌・山本猛嗣